



三谷小学校 所在地：金沢市宮野町ニ277番地
 電話：076-257-6464 FAX：076-257-6464
 HPアドレス：http://www.kanazawa-city.ed.jp/mitani-e/
 校長名：酒師 耕一郎

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	みたに	合計
児童数	5	11	5	4	9	8	1	43
学級数	1	1		1		1	1	5

	校長	教頭	教諭等							養護	事務	校務	他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学					
職員数	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	0	11

1 平成20年度学力向上の取組内容の検証

学力向上をめざして、以下に掲げる4つの視点で取り組んだ。

まず、学習意欲の向上を図るために、学校研究を中心にして、ひとりひとりが課題を解決できるための学習展開を工夫し、児童が意欲を持って学習できるような手だてを教師の各々が講じてきた。その結果、授業の中で児童が意欲的に学ぶ姿が見られるようになった。

基礎学力を向上させるためには、日々の授業の中で、適切な課題を設定し、まとめやふり返りを行い、終末には学習内容の理解度を計る評価問題を解くようにした。また、みたにぐんぐんタイム、チャレンジテスト等を通して、学習内容の定着を図ることを繰り返すことにより、基礎学力の定着が見られた。

読む力が向上するように、国語科では、板書計画を立て授業の流れを工夫した結果、自分たちの力で説明文や物語文を読み進められるようになった。また、読書を奨励したことで、積極的に読書をする児童が増えた。

表現する力を向上させるために、めざす「話す・聞く」すがたを設定し、学習やその他の場面で指導を重ねたことにより、子どもたちは、意識しながら話したり聞いたりするようになった。詩や百人一首の暗唱の取り組みを行ったことで、暗記することへの抵抗感が少なくなり、大勢の人の前でも大きな声で話せる児童が増えた。さらに、学校行事後、全校一斉に作文を書く機会を何度も設けたことより、書くことへの抵抗感が強かった児童も、書くことに徐々に慣れていった。算数科で、キーワードを抜き出す、アンダーラインを引くといった情報の取り出し方、情報を絵や図、数直線に表すことへの指導を心がけたことで、教師から促されなくても、既習をもとに自ら、絵や図、数直線に表す児童が見られるようになった。

様々な取り組みを行ったにもかかわらず、個人差が大きいということが課題として残った。学習内容の理解が難しい児童への指導や支援をより一層工夫していかなければならない。

2 平成21年度学力等の現状分析

(1) 全体の様子から

児童は、全体的に落ち着いて学習に取り組んでいる。学習規律もしっかりと守り、意欲を持って活動している。また、学習アンケートでも、「学ぶことは楽しい」と答えている。反面、全国学力調査における意識調査では、家庭学習で復習をしていると答えた児童は少なかった。そのため、学習習慣が十分に定着していない児童もいる。また、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としている児童もいる。

(2) 各教科の様子から

ア 国語科

漢字の読み書きは、比較的よくできている。しかし、文章の読み取りや、その内容から文の意味のつながりを考えることを苦手としている児童が多い。また、ローマ字やはがきの書き方を忘れてしまっている。自分の立場をはっきりさせて、考えを組み立てることは弱い。

イ 社会科

全体的によくできている。石川県全体の地形の様子、都市の位置はよく理解しているとともに、地図帳から必要な情報を検索することもできている。しかし、用語の理解が不十分な面もみられる。長い文章から、書かれていることを読み取ったり、複数の資料から分かることを読

み取ったりすることを苦手とする児童も多い。また、自分の考えを適切に表現できないという面もみられた。

ウ 算数科

基礎的な計算は、よく理解しており定着もよい。しかし、量（かさや長さ、重さ）の感覚が身に付いていない様子が見られた。表やグラフから必要な数量を読み取ることに課題がある。問題をよく読んでいない、読み取ることができないなどの理由から、題意を十分に理解できず、解答も曖昧なものとなっていた。

エ 理科

児童の興味・関心は高く、実験や観察には意欲的にとり組むことができている。体験不足のせい、こんちゅうの体のつくりや月の動きなど、日常生活に関連したことの理解が不十分である。また、学年が進むと、系統性のない以前の学習は、忘れてしまっている。

3 学力向上の取組

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けての取組

ア 日々の授業…授業でつけるべき力を明確にし、その力がつくような授業を構成する。まとめやふり返りの時間を確保し、学習内容の理解度を計る適用問題を必ず解かせる。ノート指導を徹底し、ノートには次につながるコメントを入れる。また、学習掲示を充実し、視覚に訴える機会を増やすことで、既習内容の定着を図る。

イ みたにぐんぐんタイム…木曜日の5限に、2年生以上が一室に集まり、全職員の指導のもと、算数科と国語科のプリント学習を行う。習熟度別にグループ編成をし、既習内容の習熟を図る。このみたにぐんぐんタイムは、個別支援の必要な児童への十分な支援を行う時間としても活用する。

ウ チャレンジテスト…夏季休業後、冬季休業後に、学習内容の定着をみるために行う。各学年で合格点を設定し、到達するまで再試験をすることで学習内容の定着を図る。

エ 家庭学習の充実…家庭学習の習慣と学習内容への関心、意欲は、大きく関連している。家庭学習を十分に行うことが学力向上につながるととらえ、毎日、質と量を吟味して家庭学習の課題を出す。

(2) 活用力の育成に向けた取組

ア 文章を読む力をつける…その学年でつけるべき「読む力」を意識して、その力がつくような授業構成をする。読み落としてはならない大事な言葉や文は、復唱させたり線を引かせたりして理解を促す。

イ 情報を活用する力をつける…必要な情報を探し取捨選択し、活用する場面を意識的に設定する。日常との関連を重視した学習を積極的に行うことで、情報活用能力を高める。

ウ 自分の考えを言葉でまとめる力をつける…書くことを日常的に取り入れ、書くことへの抵抗感を減らす。また、表現の仕方を指導し、書くことで自分の考えをしっかりとふり返らせる。

(3) 各教科の指導における取組

ア 国語科

(ア) 話し方をパターン化した表現に慣れさせたり、自分の言葉で全員に発表させたりする。

(イ) 手紙やはがきを書く機会を意識して作っていく。

(ウ) 書写においても指導のポイントを決めて継続的に指導していく。

イ 社会科

(ア) 社会科の授業だけでなく、様々な学習や活動の場で現在の社会状況を知る機会を設ける。

(イ) 用語をしっかりと教えるとともに、複数の資料を読み取り、自分の考えを文章表記させる。

ウ 算数科

(ア) 長さやかさ、重さなどの学習では、十分に体感させ数量の感覚を養う。

(イ) 生活の中での数学的体験を増やし、普段の生活の中から学んだことを生かそうとする態度を養う。

(ウ) 表やグラフを読み取ったり、書いたりする活動を多く取り入れる。

エ 理科

(ア) 日常生活と関連させながら、自然事象についての理解を深めていく。

(イ) 課題解決をするために予想をさせたり、観察・実験の結果を整理して考察させたりする。